

【研究主題】 小学校低学年における有効な教師のフィードバック行動の検討

【所属校名】 東近江市立能登川南小学校

【職名・氏名】 教諭 川部 長人

＜主題設定の理由＞

日々の体育授業の中で、教師のフィードバック行動が子どもたちの学習成果に大きく影響していると感じつつも、小学校低学年の児童にどのようなフィードバック行動が効果的であるか悩んでいる。今回は、とりわけ小学校第2学年のゲーム領域の単元を通して、小学校低学年期の体育科授業における教師の有効なフィードバック行動の一端を明らかにするとともに、授業力量の向上を目指すことを目的とする。

＜内容と方法＞

(1) 研究の期間

期間は、2023年5月22日から2023年6月9日である。この間に第2学年ゲーム領域「シュートボール」の授業を8時間実施した。

(2) 研究内容

本研究では以下の2点から、教師の有効なフィードバック行動について検討していく。1点目にフィードバックの量である。ベテラン教師のフィードバックの量は多く、よい体育授業では1時間の授業で100回以上のフィードバックが行われていると言われている。まずは、フィードバックの量を増やし、全ての児童にフィードバックを行えるようにしていく。2点目に児童が教師のフィードバックをどのように受け止めたかである。学びの主体は児童であるため、児童が教師のフィードバックをどのように受け止め学習を行っていったか検討していくことは重要なことである。本研究では、この2つの視点をもとに調査及び授業改善を行っていく。

(3) 研究方法

授業分析においては、VTRおよびボイスレコーダーを用いて観察収録したものを文字起こしし、教師のフィードバックの量について分析するとともに、授業実践について省察を行う。また、毎時間、授業を受けた児童に対して「形成的授業評価」と「今日の体育の授業で、先生に声をかけてもらいましたか」、「それはどんなことでしたか」、「それは役に立ちましたか」という質問紙調査を行った。その分析結果をもとにしながら効果的なフィードバックについて検討していく。

表1 フィードバックの量と子どもの受け止め

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
量	106	121	112	138	146	169	158	154
役立つ(人)	8	9	8	14	15	13	16	17

＜成果と課題＞

表1は「シュートボール」の授業における「教師のフィードバックの量」と「今日の体育の授業で、先生に声をかけてもらいましたか」の結果である。

調査の結果からもわかるように、単元の前半では子どもたちに声をかけているつもりであったが、ほとんどの児童にとっては教師から声をかけられていない状況であった。そのため、子どもに声をかける前に、名前を言ってから声をかけるように心がけた。また、「声をかけてもらっていない」と回答した児童や技能低位の児童を中心に、毎時間授業後に記録をつけ、次時以降その児童たちのフィードバックの量を多くするようにした。その結果、4時間目以降に「声をかけられた」と答える児童の数が増えたことや、形成的授業評価の「成果」の項目(図1)の向上につながったと考えられる。

図2は「教師の役立った声かけ」について、テキストマイニングを行った結果である。

深見(2010)は「運動ができなかったりわからなかった

りしたときの助言や課題提示が最も役に立ったと受け止められていたが、それ以外にも運動がうまくなったりできたときの賞賛や励ましもまた役立つ教師の言葉かけとして受け止められていた」と述べている。子どもたちへの声かけも「今のよく見て動いた。ナイスシュート」など肯定的フィードバックを多く行ったことにより、「役立った」と答える児童の数が増えたことにつながったのではないかと。

今回の研究ではフィードバックの量的な向上が見られたが、質的な向上については今後の課題である。有効なフィードバックの具体的な内容の検討とともに、出席簿を利用してフィードバック・メモを残すなどして質的向上を目指していきたい。

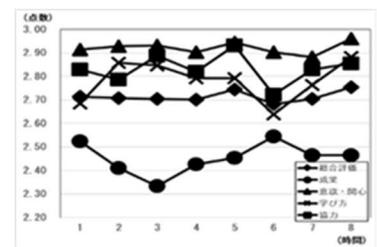


図1 形成的授業評価の結果

